

平成 18 年度 事業報告

平成 19 年 5 月 23 日

主任研究員 大田章子

1. 事業実施概要

本年度は、平成 17 年度に引続き、睡眠障害研究、脳血管障害研究、介護予防研究の 3 本柱で事業を行った。

睡眠障害研究は、平成 18 年秋より開設された明神館脳神経外科を調査フィールドとし、実践的な研究に取り組んできた。現在進行中の研究テーマとしては、経鼻的持続気道陽圧 CPAP (Continuous Positive Airway Pressure) を装着した患者の満足度、QOL に関する研究、睡眠障害と生活習慣病の関連に関する研究、睡眠障害患者の長期予後調査等であり、これらの成果については、平成 19 年度における学会、論文等で公表していく予定である。なお、一昨年実施した、幼児の睡眠衛生に関する質問紙調査については、大田浩右により論文として投稿され、日本睡眠学会の英文雑誌 *Sleep and Biological Rhythms* への採用が決定した。

研究以外の活動としては、国内の代表的研究者を招聘し、睡眠研究会を開催した。リビング福山や、経済レポートといったメディアを通じて、市民の睡眠に関する啓蒙事業も積極的に行っている。

脳血管障害研究は、脳神経センター大田記念病院と協同し、脳卒中および血管内治療に関する治療データを統計的に分析した。研究成果は、日本脳卒中学会等の国内学会、およびサンフランシスコで開催された International Stroke Conference 等の国際学会で発表された。今年度も引き続き、これらの活動を行っていく予定である。

メディカルフィットネス渋谷を研究フィールドとした介護予防に関する研究については、平成 17 年度に引続き、厚生省老人保健健康増進等事業の助成を受けて実施した。脳卒中やメタボリックシンドロームといった疾患、症状を有する患者に対するトレーニングプログラムを立案し、その有効性を検討した。これについては、別添の事業報告書としてまとめた。平成 19 年度も引き続き本助成に申請しており、メディカルフィットネスにおける運動指導者養成事業を行っていく予定である。

2. 業績（抄録、報告書は別添の資料を参照のこと）

原著論文

Ota K, Ota A and Kitae S. Analysis of the Sleeping Habits of Young Children in Relation to Environmental Factors and Psychological State. *Sleep and Biological Rhythms*. (in press)

学会発表

- 1) 大田 慎三, 松下 珠美, 小埜聡司, 土田和幸, 島田隆一, 後藤勝弥. Progressive stroke を呈する内頸動脈閉塞症例に対する急性期血管内治療. 第 5 回 日本頸部脳血管治療学会; 2006 Apr 14-15; 神戸, 日本
- 2) 佐藤 倫由, 福嶋 朋子, 大田慎三, 後藤勝弥, 佐能 昭, 小埜聡司, 土田和幸, 佐藤昇樹, 大田浩右. くも膜下出血開頭手術後の vasospasm 発症状況とその予後ついでの変化. 第 9 回 日本病院脳神経外科学会; 2006 Jul 15-16 ; 新潟, 日本
- 3) 大田 慎三, 松下 珠美, 小埜聡司, 土田和幸, 田中康恵, 後藤勝弥, 大田浩右. 破裂脳動脈瘤に対する脳血管内治療成績の検証. 第 65 回 日本脳神経外科学会総会; 2006 Oct 18-20 ; 京都, 日本

- 4) 大田 慎三, 松下 珠美, 後藤勝弥, 小埜聡司, 土田和幸, 田中康恵, 知禿四郎, 大田知子, 大田浩右. 当院における急性期脳梗塞に対する脳血管内治療成績の検証. 第 23 回 日本脳神経血管内治療学会総会;2006 Nov 16-18 ;徳島, 日本
- 5) Sato M, Fukushima T, Ota A, Goto K, Kobanawa S, Tsuchida K, Ota T and Suzuki S.
The chronological change on incidence of postoperative SAH patients and their outcome at discharge from PPV to CDH. The 3rd Japanese-Korean Joint Stroke Conference;2006 Nov 25-26 ;Jeju, Korea
- 6) Aoki S, Fukushima T, Takamatsu K, Goto K and Ota K. A Comparable Study of Favorable and Unfavorable Warfarin Controlled Groups for Cerebral Infarction. The 3rd Japanese-Korean Joint Stroke Conference ;2006 Nov 25-26 ;Jeju, Korea
- 7) Arame C, Yumite M and Ota A. Development of Fall Risk Assessment Sheet in Stroke Patient Care. International Stroke Conference 2007;2007 Jan ;San Francisco, USA
- 8) 青木 志郎, 福嶋 朋子. 発症 2 時間以内に来院した超急性期脳梗塞患者に対する当院の治療内容の現状. 第 32 回 日本脳卒中学会総会;2007 Mar ; 福岡, 日本
- 9) 福嶋 朋子, 青木 志郎. 未破裂脳動脈瘤患者の心理状態についての内容分析. 第 32 回 日本脳卒中学会総会;2007 Mar 21-22 ; 福岡, 日本
- 10) 大田 慎三, 松下 珠美, 小埜聡司, 土田和幸, 田中康恵, 知禿史郎, 中崎清之, 佐藤倫由, 後藤勝弥, 大田浩右. 症候性の頸動脈狭窄病変に対するステント留置術の治療成績—SAPPHIRE 試験との比較. 第 36 回日本脳卒中の外科学会;2007 Mar 21-22; 福岡, 日本
- 11) 大田 章子、菊池恵美子、大田 浩右. 幼児の睡眠に関する調査. 第 13 回福山医学祭; 2006 Nov 26; 福山, 日本;2006.

研究報告書

- ・ 大田 浩右、松崎主税、大田 章子. 平成 18 年度老人保健健康増進等事業報告書 メディカルフィットネスにおける効果的な運動指導に関する調査・研究事業. 2005

研究会開催

第1回

日 時 平成18年7月12日18時

講 師 北浜 邦夫先生 (フランス国立科学研究所神経科学部門、主任研究員)

演 題 「睡眠の科学～夢と睡眠、ピカソとマチスとフランス映画」

参加者数 59名

第2回

日 時 平成18年7月30日19時

講 師 小林 有里 (アステラス製薬広島支店学術部担当)

演 題 「睡眠障害と薬物治療について」

参加者数 44名

第3回

日 時 平成18年11月17日19時

講 師 森 昭胤先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科アンチエイジング講座教授）

演 題 「脳内ホルモンのおはなし1 ～神経伝達物質の代謝と働き～」

参加者数 56名

第4回

日 時 平成18年12月1日19時

講 師 森 昭胤先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科アンチエイジング講座教授）

演 題 「脳内ホルモンのおはなし2 ～神経伝達物質の代謝と働き～」

参加者数 53名

第5回

日 時 平成18年12月6日19時

講 師 内山 真先生（日本大学医学部 精神医学講座教授）

演 題 「睡眠障害の臨床」

参加者数 60名

第6回

日 時 平成18年12月21日18時

講 師 北浜 邦夫先生（フランス国立科学研究所神経科学部門、主任研究員）

演 題 「芸術に現れた夢の話」

参加者数 51名

第7回

日 時 平成19年1月25日18時30分

講 師 三谷 恵一先生（岡山大学名誉教授）

演 題 「2分間でイライラした心をリセットして、安眠に誘う新しい方法と実習」

参加者数 60名

第8回

日 時 平成19年2月9日19時

講 師 森 昭胤先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科アンチエイジング講座教授）

演 題 「脳内ホルモンのおはなし3 ～脳症状と神経伝達物質との関係～」

参加者数 40名

第9回

日 時 平成19年3月27日19時

講 師 堀 忠雄先生（広島大学総合科学研究科教授）

演 題 「パワーナップと快適生活」

参加者数 53名

3. 研究助成など

1) リサーチレジデント

○研究課題「人工肝臓・人工脾臓に関する研究」佐藤慎太郎氏に対して 3,850,000 円の助成をした。

(研究報告書は別添)

2) 高齢者保健医療福祉助成

○市民への痴呆予防啓蒙活動として金子満雄先生の脳リハビリに 125,000 円を助成した。

○広島大学医学部（担当 松本昌泰氏）に対し、500,000 円の研究助成をした。

研究課題「頸動脈の動脈硬化とアスピリンレジスタンスに関する臨床研究」

○「地域に在住する要介護・要支援高齢者へのアンチエイジング・リハビリテーションに関する事業」への事業助成として、医療法人祥和会へ軽ワゴン 1 台 1,089,430 円を寄贈した。